

ISO/TC 68 国内委員会総会 議事録¹

日 時：2020 年 11 月 9 日（月）10：00～15：00
場 所：日本銀行本店（電話会議）
出席者：ISO/TC 68 国内委員会 委員・リエゾン・事務局
日本銀行 決済機構局長、森参事役 ほか

- 2020 年 11 月 9 日に開催された ISO/TC 68 国内委員会（以下、当委員会）の議事の模様は以下のとおり。

1. 開会挨拶

ISO/TC 68 国内委員会委員長の松本横浜国立大学教授、日本銀行決済機構局の神山局長および森参事役が開会挨拶を行った。

—— 松本委員長は、新型コロナ禍により世界情勢が変わっていく中で、事務局が工夫をして今回も電話会議システムを用いた総会開催となった。長時間に亘って盛りだくさんの内容となっているが、円滑な議事運営により、しっかり議論していきたい、と述べた。

—— 神山局長は、今回の国内委員会総会は、事務局を金融研究所から決済機構局へ移して初めての開催となる。決済機構局は、日頃より金融機関・金融市場インフラ・フィンテック企業・ベンダー企業など、幅広い金融関係者の皆様との接点を持っていることから、標準化活動に有益な情報を捉えやすく、金融業界におけるカタリスト（触媒）としての機能を発揮しやすい立場にあるとも言える。そうした立場を活かし、決済機構局に与えられた標準化活動の推進という役割と、決済システムに関する企画立案という従来からの役割のシナジーを一段と発揮することで、我が国のより良い決済システムの構築に向け、引き続き尽力して参りたい。また、決済機構局では、10 月 9 日に「中央銀行デジタル通貨（CBDC）に関する日本銀行の取り組み方針」を公表しており、今後の制度設計面の検討項目の一つとして、「デジタル通貨に関連する情報技術の標準化のあり方」を掲げている。各国の CBDC の相互運用性を確保していくことの重要性を踏まえると、今後、国際標準についても、各国間で議論を深めていくことが重要となることが考えられる。従来か

¹ ISO（the International Organization for Standardization：国際標準化機構）/TC 68（金融サービス分野の専門委員会）は、金融業務に利用される情報通信技術、情報セキュリティ技術等を対象とする専門委員会。

らの中央銀行間の枠組みに加え、ISO/TC 68 の枠組みも活用しながら CBDC の議論を深化させていきたい、と述べた。

—— 森参事役は、初めての長時間開催となることに加え、WG で様々な議論が行われている中で、それらを全て時間内に説明するのが難しいことを踏まえ、事務局が説明資料の一層の充実化を図るなど、できる限りの工夫を行った。この間、国内作業部会の取り纏め役を中心に委員の皆様にも多大なご協力をいただいたことに御礼申し上げる。総会の進行ではご不便をおかけするが、活発な意見交換をお願いしたい、と述べた。

2. 事務局および国内作業部会委員からの報告、議題

新型コロナウイルス感染症の影響について、ISO 中央事務局から ISO 会合を 2021 年 1 月末まで対面会合禁止するとの通達が発出されたことを受けて、全ての ISO 会合はバーチャル開催とすることが決定されたこと、TC 68 総会が 9 月 21 日～25 日にかけてバーチャル開催（Webex）されたことを、事務局が報告した。

続いて、最近の ISO/TC 68 の動向について、TC 68 傘下の WG 毎に国際投票状況を踏まえた個別の報告を事務局が行い、対応する国内作業部会の各委員からも具体的な説明が行われた。このほか、ISO 20022 RMG での討議内容や Payments SEGs ほか部門毎の足許の動向について、ISO 20022 RMG 副議長の田貝氏および事務局が報告を行い、対応する国内作業部会の各委員からも専門的な説明が行われた。

最後に、事務局から、①2020 年 6 月および 7 月に開催した総会議事録の対外公表（当委員会ホームページ掲載）、②当委員会ホームページのリニューアル、③ISO パネルの開催予定、④委員会運営面の検討（委員委嘱状・委員承諾書における押印の廃止、国際投票における回答案の取扱い）、⑤ISO 文書システムの更新および ISO Directives の改正、⑥委員の異動、についてお知らせしたほか、前回総会以降にメール審議を実施した国際投票案件の状況について席上で確認を行った²（別添資料 1 を参照）。

² 国際規格の開発には、以下の 6 段階のプロセスがある※。予備業務項目（PWI: Preliminary Work Item）→ 新業務項目提案（NP: New work item Proposal）→ 作業原案（WD: Working Draft）→ 委員会原案（CD: Committee Draft）→ 国際規格案（DIS: Draft International Standard）→ 国際規格（IS: International Standard）。

※ 必要に応じて、DIS 投票時におけるコメントを踏まえた最終国際規格案（FDIS: Final Draft International Standard）の投票が実施され、その場合、7 段階のプロセスとなる。

3. リエゾン報告

① ISO/TC 307 (Blockchain and Distributed Ledger Technologies)

ISO/TC 307 国内審議委員会の楠委員長より、別添資料 2 に基づき、TC307 の最近の動向について報告が行われた。

② ISO/IEC JTC 1³/SC 17 (Cards and Security Devices for Personal Identification)

ISO/IEC JTC 1/SC 17 国内委員会の廣川委員長より、別添資料 3 に基づき、SC 17 の最近の動向について報告が行われた。

③ ISO/IEC JTC 1/SC 27 (IT Security Techniques)

ISO/IEC JTC 1/SC 27 専門委員会の渡邊委員長より、別添資料 4 に基づき、SC 27 の最近の動向について報告が行われた。

④ ISO/IEC JTC 1/SC 37 (Biometrics)

ISO/IEC JTC 1/SC 37 専門委員会の新崎委員長より、別添資料 5 に基づき、SC 37 の最近の動向について報告が行われた。

4. 講演／経済産業省

経済産業省産業技術環境局国際電気標準課（JISC）の林課長補佐より、最近の国際標準化に関する世界の動向などについて講演いただいた。

5. 次回の開催予定

次回の ISO/TC68 国際会合は、2021 年 5 月 10～14 日にノルウェー・オスロで開催予定のほか、ISO/TC 68 国内委員会総会は、2021 年 6 月頃に開催予定であることを連絡した。

以 上

³ ISO と IEC (International Electrotechnical Commission : 国際電気標準会議) との合同技術委員会。